

事業所名： グループホーム しずくいし（うぐいす）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372100966		
法人名	株式会社 しずく		
事業所名	グループホーム しずくいし（うぐいす）		
所在地	〒020-0572 岩手県岩手郡雫石町西安庭15-81-26		
自己評価作成日	令和7年11月10日	評価結果市町村受理日	令和8年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 地域交流
花植え交流 夕涼み会や敬老会への招待 地域行事への参加
- 職員研修の充実
実地研修 WEB研修(毎月)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社員寮を改修した2階建ての2ユニットであり、近くには御所湖や温泉があり、自然豊かな住宅地に位置している事業所である町社会福祉協議会が開催している「お互い様情報交換会」は公民館長、民生児童委員、6地区の班長等で構成されており、会議に管理者も出席し事業所の状況を情報提供する等地域との交流は継続されている。また、系列法人が運営する特別養護老人ホームや介護老人保健施設との連携が図られており、利用者の状態変化に応じて円滑に対応することができている。コロナ禍以降、地元小学校等との交流は自粛しているが、夏休みには小学生のラジオ体操の場を提供しており、利用者もその様子を楽しそうに眺めている。さらに地域の昔からの行事である「むしまつり」を見学することもでき利用者からは好評であった。管理者との個人面談や日頃の職員との会話から職員の意見要望をもとに「業務時間や休憩時間」についての業務改善につなげる等、働きやすい環境づくりを目指している。□

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年12月1日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム しずくいし (うぐいす)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	申し送り時やケアカンファレンスなどで職員が理念に基づいたケアや情報共有を行う事ができている。 GH理念は事務所に掲示されている	運営理念として、①安全で楽しく、快適な生活、②家族と利用者の尊厳を守り ③その人らしく暮らすことへの支援 ④地域と家族、利用者と施設との絆を大切に とする四つの項目を挙げている。理念は年1回職員間で話し合い、自分達が日頃行っているケアに直結した内容であることを確認するとともに毎月開催する職員会議で唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	感染症の心配もあるが、可能な限り地域行事に参加したり、招待したり交流をしている。夏休みには地区の子供たちのラジオ体操の場を提供している。	町社協主催の「お互い様情報交換会」は公民館長、民生委員、民生児童委員、6地区の班長6名、元老人クラブ会員で構成され、管理者も出席し地区や当事業所の状況について情報共有している。毎年開催される「むしまつり」の行列見学は利用者に好評である。保育園・小学校等との交流はコロナ禍以降自粛しているが、小学生の夏休みのラジオ体操の場として、駐車場を提供している。また、当事業所で開催する敬老会、花植え、夕涼み会には近隣住民にも声かけをするとともに、ホームの広報誌を地区回覧板に入れてもらっている。冬季には隣人に雪かきを手伝っていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	広報誌を作成し回覧している。また施設行事への招待を行って参加してもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	6回/年、行政区長、民生委員、ご家族、行政に参加していただき、報告を行ったり、情報を収集している。	年6回開催しており、行政区長、民生委員、町総合福祉課職員が出席している。家族にも毎回声掛けし、都合のつく家族に出席していただいている。利用者には体調を見て声掛けすることもある。会議では、利用者の状況、感染症に関すること等を話し合っている。なお、年度当初に年6回のテーマを予め決めている。毎回の会議では、運営に関する事、職員体制の事、事業所への要望などについて、出席者から活発な意見が出されている。なお、今後公民館長へ出席を要請することも考えている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし (うぐいす)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	担当者とは会議を通して情報共有したり、困りごとがあれば連絡してアドバイスをもらっている	町窓口とは随時情報交換を行い、相談しやすい関係が構築されている。運営推進会議には町総合福祉課職員が毎回参加し、運営に関連する助言を得ている。また生活保護受給者が2名おり、年1回盛岡地方振興局の職員が来訪している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年2回の勉強会や年4回の調査を行い取り組んでいる。またやむを得ない場合(安全の確保)ご家族の了承を得て、施錠する場合もある。その時は記録に残している。	委員会は、管理者1名と介護職員4名の5名で構成され、年4回開催し結果を全職員へ周知している。また、研修は年4回開催している。玄関の施錠は、16時から翌日7時までとしている。日常生活の様子が安定しない利用者1名については居室窓の施錠を行ない、転倒が懸念される利用者1名にはセンサーを利用するなど、家族の理解を得たうえで対応している。スピーチロックは管理者が随時注意喚起し、申し送りの際に改めて注意し是正を確認している。なお、身体拘束に関する自己チェックを年4回実施し、職員それぞれの振り返りの機会としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会を通して防止に努めている。また日々のケアの際に身体状態を観察したり、行動を観察している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会を行っている。現在は制度利用者はいないが、いつでも対応できるように準備している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書、重要事項説明書、運営規定など契約の際は説明し、同意をもらっている		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし (うぐいす)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に伺ったり、意見箱を設置し、ご意見を聞ける状況を作っている。意見や要望があった場合には申し送り時に情報共有している	意見箱を設置しているが、これまで意見箱への投稿はない。家族へのアンケートを毎年度末に実施し、半数の家族から回答があり、レクリエーションの在り方などについて要望が出されることがある。アンケート結果は全家族に送付している。利用者個々の日頃の様子は、居室担当者が一人ひとりの写真と日常生活の状況をまとめたものを家族に送付している。なお、面会時には出来るだけ家族の生の声を聞くように心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議を通して機会を設けている	職員との面談は、一次面談がユニットリーダー、二次面談が管理者とそれぞれ年1回ずつ行っている。困っていることはないか、体調のこと、夜勤のこと、家庭のこと等について、管理者と話し合っている。職員からは、休憩時間や始業時間、休憩場所等について提案等が出され、それについて職員間で話し合い、業務時間の改善を行うなど、職員の意見が具体的な業務改善に繋がっており、働きやすい職場環境づくりを心がけている。	職員との面談、日頃の会話を通じて職員から業務に関する意見要望が出され、それをもとに業務改善につながった例もあり、今後とも引き続き職員の生の声に耳を傾け、働きやすい職場環境づくりを目指すことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	シフトの調整をしたり、休みやすい環境を作ったりしている。またモチベーションが維持出来るよう、給与交渉なども行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月、WEB研修を行い、その他の職員には回覧にて共有している。またスキルアップのため、資格取得のために情報共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	協会やグループ内の会議や勉強会に参加し、質の向上に努めている		

事業所名 : グループホーム しずくいし (うぐいす)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	申請を受けた後、本人の生活の場へ訪問し面談をおこなっている。その場ではなかなか深くは知り得ないが、まずは顔を覚えてもらう事に努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	申請時にある程度面談で聞き取る。思っている事、困っている事をすべて話す家族もいる反面、家族であっても知らな事ばかりということもある。出来る限り困り事や今後について聞き取るようにしている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居までに本人の暮らしのシートを家族に記入してもらっている。前任のCMなどからの情報も参考にしている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活の場であるため、家事全般について出来る事を一緒に行い、やっていただいたものには感謝を伝えるようにしている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の体調や精神状態などに少しでも変化があった場合には、常に連絡をして情報共有している。またケアプラン作成時には意向の確認を行っている			

事業所名：グループホーム しずくいし（うぐいす）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や家族の面会があり交流出来ている。定期受診の際には家族と共に外出をして外食をしたり、帰省をする利用者もいる	家族が生活用品を持参して面会に訪れたり、家族と一緒に外食する利用者もある。また、友人が面会に来ることもあり、その際は事前に家族に連絡し了解を得ている。遠距離の家族には随時電話で状況を報告し、関係が途切れないよう支援している。なお、現在は訪問診療医、訪問歯科医、訪問理容師が馴染みの人となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや日々の家事を通して関わっている。外出などでいない利用者を心配する声も聞こえたりする		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居時には次の施設等に情報を送っている。利用後も同じ家族からの申請を受けたり、退居しても再申請する方もいる		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居までに本人の暮らしのシートを家族に記入してもらっている。前任のCMなどからの情報も参考にしている	ほとんどの利用者が自分の思いを話せることができ、ゆったりとした雰囲気の中で職員が利用者の望んでいることに耳を傾けるように心掛けている。行きたい場所、食べたいもの、花を育てたい等の希望が出されることもある。把握した利用者の思いは、職員間で共有し、家族の了解を得ながら具体化するなど、日頃のケアに活かすよう職員一丸となって取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	暮らしの情報シートを参考に家族から聞き取る。自宅で使用していたものや馴染みの物を身近においてもらっている		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし (うぐいす)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝のバイタル測定にて体調の把握を行い、個々の生活の見守り方法を考えている。無理なく生活してもらえるよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者個々の気づきシートに記入し、介護計画の参考にしている。カンファレンスにて職員の意見を共有している	入居当初は、介護支援専門員がアセスメントを行い暫定プランを作成し1か月後に見直している。3か月間の短期目標、6か月間の長期目標を作成して、日頃の様子や目標の達成状況は、居室担当者やスタッフが気づきシートに記入して、毎月開催されるカンファレンスで意見交換を行っている。介護計画作成にあたっては、訪問医師、理学療法士等の意見や、本人、家族の思いを盛り込んで作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録に日々の変化を記入し、職員間で情報を共有しながら、サービス計画にすぐに取り入れるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	外部からフットケアの業者に入ってもらい、利用者の希望にて施術を行っている方もいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の老人クラブの方々と花植えなど交流を継続的に行い、ホーム生活で持てる力をできるだけ維持していけるよう支援している		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし (うぐいす)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療を行っているが、かかりつけ医を希望している利用者は家族対応で受診している	入居前からのかかりつけ医を受診している利用者は6名(1Fうぐいす2人、2Fかつこう4人)であり、家族の同行受診を基本とし、家族は日常生活の様子等を記載した連絡票を持参している。訪問診療を利用している利用者は12人(1Fうぐいす7人、2Fかつこう5人)となっている。また、月1回の訪問歯科診療もある。精神科受診の際には家族同行が基本であるが、看護師が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日のバイタルチェックの確認、週に一度の健康チェックをして変化に気づくようにしている。介護と看護の情報共有をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急の受診や入院時の付き添いは看護師が対応し、必要な情報の提供ややり取りを看護師が対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りの指針はあるが、医療面などが整備されていないため、対応は難しい状況にある	重度化した場合の対応について、入居時に「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」により、本人及び家族に説明している。看取りは行っていないが、緊急時の対応や救急搬送等について研修に取り入れている。なお、急変による医療機関入院や系列の特別養護老人ホーム等への入所は円滑に行えるよう連携が図られている。喀痰吸引資格について現在2名の職員が申請中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルが整備されている。定期的に勉強会を行い、備えている		

事業所名 : グループホーム しずくいし (うぐいす)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を行い、有事に備えている。また地域の懇談会に参加して、地域住民や状況や有事の際の避難場所として使えるように状況共有している	避難訓練は年2回実施している。うち1回は夜間想定訓練とし職員の動きなどを確認している。毎月開催される町社協主催の「お互い様情報交換会」には多くの地元関係者、行政機関等が出席しており、その際に災害時に協力が得られるよう関係する情報を伝達している。職員4名が事業所から5分以内に居住しており、緊急時に駆けつける体制となっている。また、従来から食糧・水の備蓄や発電機の購入等非常時に備えている。夜間想定訓練での課題からヘッドライトを購入している。なお、外階段で2階からの避難については、引き続き課題として検討していきたいとしている。	地域の関係機関との定期的な会議への出席により地域との連携体制が構築されており、さらに有事に備えて地域の関係機関、近隣住民の協力を得られる体制づくりを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	不安の訴え、トイレ誘導など周囲に配慮して声掛けを行うようにしている	プライバシーを守り、家族と利用者の尊厳を守るという運営理念を常に念頭に置き、トイレ誘導、入浴時の声掛けには細心の注意を払っている。また、各利用者の特技を尊重しながら、歌うことや塗り絵、工作等の利用者の好みなど、個々の思いを踏まえながら声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活の様々な場面で、本人が選択できる機会を出来るだけ多く設けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日常生活のスケジュール通りになってしまう事が多いが、その中でも本人の意向をくみ取り、支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に1度、訪問床屋に来てもらっている。本人に好みに合わせた衣類選びを行い、本人の気持ちが明るくなるような声掛けをしている		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし (うぐいす)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や片付けを一緒に行っている。季節の行事等では利用者の希望を聞いて提供している	食材は外部業者に委託し、湯煎して提供している。週1回の麺類は好評である。職員は弁当を持参し利用者と一緒に食べている。季節に合わせて彼岸団子、水木団子、父の日・母の日にはロールケーキ、クリスマスや正月にはおせち料理等、四季折々の行事に沿った食事やデザートとしている。両ユニット合わせて3、4名の利用者が、盛り付け、配膳、下膳、茶碗拭き、テーブル拭きなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士による栄養指導を下に、食事形態や提供の仕方を工夫している。体調に合わせ、食事意欲に繋がるように配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医による訪問歯科を受けている利用者がある。義歯など不具合がある場合は、連絡し、受診できるように支援している。また日々の歯磨きもそっかり行えるように声掛けしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄表を利用し、定時の誘導や声掛けを行っている。声掛けに応じない時は時間を置いたり、職員を代え対応している	排泄表により、利用者それぞれのパターン等に合わせて声かけやトイレ誘導を行っている。布パンツ利用者は両ユニットで4名おり、その他の人はリハビリパンツを使用している。ポータブルトイレを使用している人はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便困難時には看護師の指示のもと、下剤徴している。また水分補給やヨーグルトなど食事の面でも工夫している		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし (うぐいす)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	週2~3回の入浴を行っている。体調がすぐれない場合は別の日を設けて支援している	利用者のほとんどが入浴の際に自分で衣類を準備したり、衣服の着脱、体を洗うことも一人で出来る。月・火・木・金曜日を入浴日とし週2回は入浴できるようにしている。ゆったりとした雰囲気が入浴できるよう「せかさない、干渉しすぎない」ように心掛けている。入浴は全身観察の良い機会であり、皮膚の状況など気になったことは職員間で共有し、必要により看護師が処置を行うこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	起床時間や就寝時間は本人のペースに合わせて見守っている。体調を見ながら休息を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は利用者の服薬状況を把握している。変更時などは記録に残し、情報共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎日ではないが、レクリエーションを行っている。強制はせず、自然に参加できるような雰囲気作りも心掛けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お盆や正月など外泊や外出をする利用者もいる。	お盆や正月に外出する利用者もいる。外泊する利用者は各ユニットに1名ずついる。日頃の散歩は、事業所の周囲を1周したり、近隣に散歩に出かけることもあるが、熊騒動の関係で現在は自粛している。四季折々の花見、紅葉狩り等にドライブに出かけ、利用者にとっては非常に良い気分転換の機会となっている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし (うぐいす)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の預かりを行っていないため、機会が無い		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	遠方の家族からの手紙や電話がある利用者もいる。また不安が強い時にも声を聴いて安心する利用者もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	廊下が狭い為、転倒や接触に繋がらないよう整理整頓に努めている。また装飾は季節感のあるものを飾るようにしている	元社員寮を改修し事業所として利用している。1階と2階は同じ構造となっており、2階へは外階段で繋がっている。階段には自動昇降機があるが、現時点で2階利用者は自力歩行が可能であるため利用していない。ホールには四季折々に作成した作品が飾られている。利用者はそれぞれ思い思いの場所でゆったりと生活している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自席でくつろいだり、馴染みの利用者と会話したり出来ている。畳のスペースに腰かけて休んだり、洗濯物をたたんだり、様々な空間がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際、自宅で使っていたものを持ってきてもらっている。また個々に居室で花を育てたり出来るよう支援している	ほとんどの部屋には大型クローゼットが備えつけられており、部屋全体がすっきりした印象がある。各利用者は、思い出の写真や使い慣れた椅子、テレビを持ち込んだり、観葉植物を育てる等思い思いに過ごしている。また、自分で洗濯をして居室に干したり、掃除は各利用者が行う等自分で行うことはなるべく各利用者が行うようにしている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし (うぐいす)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室には名札がついており、迷わないようにしている。またトイレやお風呂など文字を大きく見やすいように工夫している		